

令和5年度 病害虫発生予察注意報 第1号

令和5年8月1日
千葉県農林総合研究センター長

大型斑点米カメムシ類（特にクモヘリカメムシ、イネカメムシ）による 斑点米発生に注意

1. 注意報の内容

- (1) 対象作物及び病害虫名：水稲、斑点米カメムシ類（特にクモヘリカメムシ、イネカメムシ）
- (2) 発生地域：県内全域
- (3) 発生量：多

2. 注意報発令の根拠

- (1) 7月中旬に行った県内31地点の水田のすくい取り調査において、大型斑点米カメムシ類の平均捕獲虫数は5.94頭（1地点当たり20回振りすくい取り（以下同じ）；平年2.94頭）と過去10年と比較して最も多かった（図1、2）。
- (2) 同調査において、クモヘリカメムシの平均捕獲虫数は5.00頭（平年2.24頭）と過去10年と比較して最も多く、イネカメムシの平均捕獲虫数は0.81頭（平年0.39頭）と過去10年と比較して3番目に多かった。
- (3) 7月27日に発表された気象庁の1か月予報（関東甲信地方）によると、向こう1か月間の気温は高いと予報されている。このため、斑点米カメムシ類の増殖や水田侵入後の加害活動の活発化に注意する必要がある。

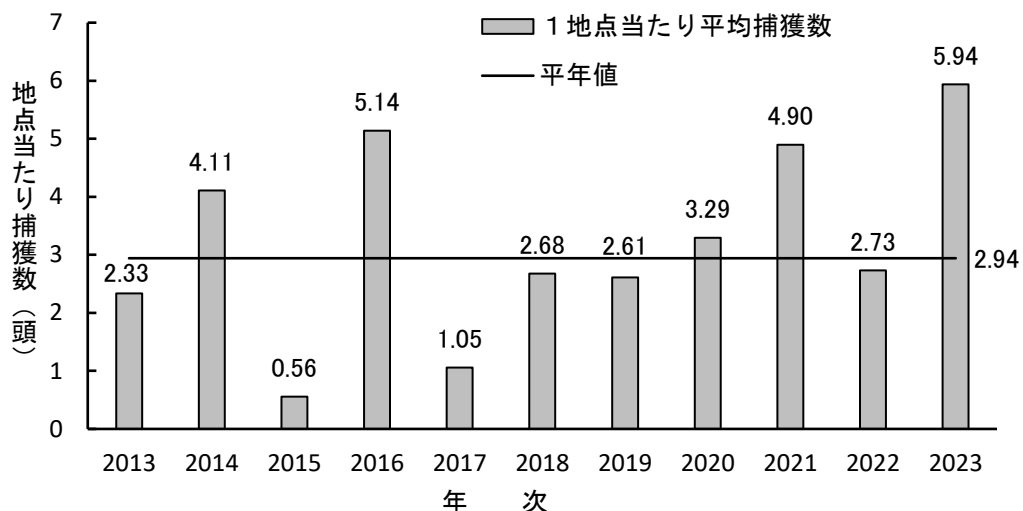


図1 水田における大型斑点米カメムシ類の年次別捕獲数（7月中旬）

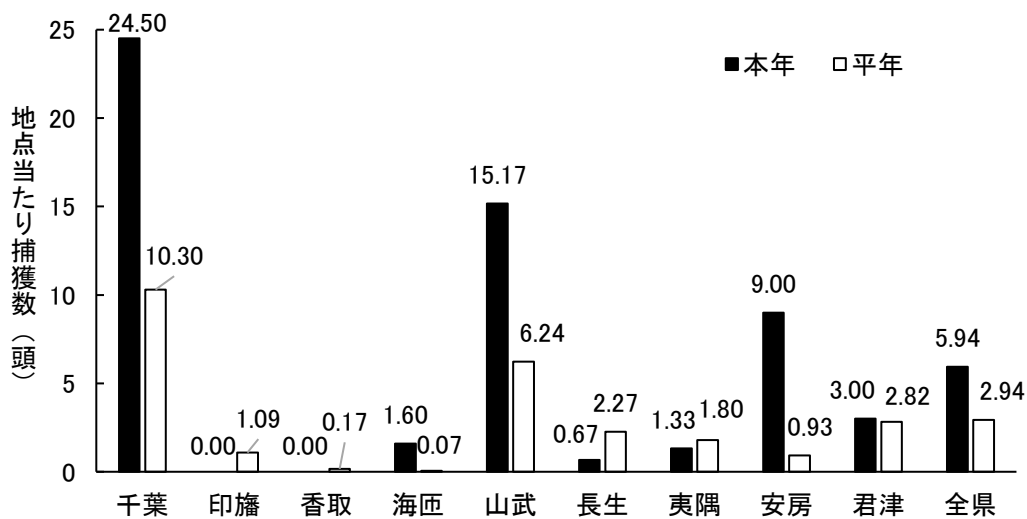


図2 水田における大型斑点米カメムシ類の今年の地域別捕獲数（7月中旬）



写真1 クモヘリカメムシ成虫（左）
イネカメムシ成虫（右）



写真2 斑点米

3. 防除対策

- (1) ほ場及び周辺雑草地を観察し、斑点米カメムシ類が多発している場合は、表を参考にほ場の薬剤防除を行う。
- (2) 防除適期は、成虫飛来期である「穂揃期(出穂期※3日後)」と、侵入した大型の斑点米カメムシ類の成虫が産卵した卵から幼虫が孵化する「乳熟期(出穂期から15日後頃)」の2回である。大型斑点米カメムシ類は、飛来成虫よりも孵化幼虫による被害が大きく、乳熟期（籾を指で押しつぶすと乳液状の時期）から糊熟期（同様に糊状の時期）の吸汁によって被害が発生する（写真1、2）。

※出穂期とは4～5割の穂が出穂した時期のこと

- (3) 共同防除実施地域においても、薬剤散布後に侵入した成虫によって被害が発生する可能性がある。例えばジノテフラン水溶剤（スタークル等）は残効が長く、防除後2週間程度は斑点米カメムシ類の発生密度の抑制が期待できるが、水稻の出穂状況や斑点米カメムシ類の発生状況により適宜、追加防除を行う。

※クモヘリカメムシの要防除水準（斑点米産出率を0.3%未満に抑えることを目標）

穂揃期の20回振りすくい取り成虫数が、早生品種で7頭以上、晩生品種で2頭以上。

4. 留意事項等

- (1) 畦畔周辺にキシウスズメノヒエ等イネ科雑草が多いほ場では斑点米カメムシ類の発生が多い傾向がある。また、周辺より出穂が早いか、反対に特に遅い水田では集中的に加害されやすいので注意する。
- (2) 粒剤は周辺で収穫が始まっている場合等のドリフト回避に有効だが、水に溶けた成分が水稻に吸収されて効果を示すため、即効性は液剤等の虫体への直接散布より劣る。特に大型斑点米カメムシ類に対する防除の際には留意する。
- (3) 水稻に割れ粃が発生すると、粃開口部からの斑点米カメムシ類の加害により登熟期後半に斑点米が発生しやすくなる。「あきたこまち」など割れ粃が発生しやすい品種を栽培している場合は留意する。
- (4) 収穫間近の防除になるので、**薬剤の使用基準（収穫前使用日数）に注意し、厳守する。**

表 斑点米カメムシ類の主な防除薬剤

薬剤名	使用時期 ^{注1)} /同一成分使用回数	10a 当たり使用量
有機リン系（1B） ^{注2)}		
エルサン粉剤3DL	収穫7日前まで/2回	3kg
合成ピレスロイド系（3A）		
トレボン粉剤DL	収穫7日前まで/3回	3～4kg
トレボンMC	収穫14日前まで/3回	2,000倍 60～150L
ネオニコチノイド系（4A）		
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	収穫7日前まで/3回	2,000倍 60～150L
スタークル/アルバリン粉剤DL	収穫7日前まで/3回	3kg
スタークル/アルバリン粒剤	収穫7日前まで/3回	3kg
ダントツ水溶剤	収穫7日前まで/3回	4,000倍 60～150L
ダントツ粉剤DL	収穫7日前まで/3回	3～4kg
ダントツ粒剤	収穫7日前まで/3回	3～4kg
フェニルピラゾール系（2B）		
キラップフロアブル	収穫14日前まで/2回	1,000～2,000倍 60～200L
キラップ粉剤DL	収穫14日前まで/2回	3～4kg
キラップ粒剤	収穫14日前まで/2回	3kg

注1) 収穫前日数14日以下の剤を抜粋。

2) 系統名の後の（）内は作用機構分類コードを示す。

- ・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

- ・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107 E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

